

子どもたちが有機農業体験

子どもが農作物の栽培や収穫を体験すると、普段食べているものに興味を持つようになる。それが有機農業の場合、安全な農作物に関する知識を得られるばかりか、虫や有機肥料に触れることで、おおらかになると期待する声もある。



真剣な表情でハクサイの苗に土をかける親子＝東京都港区の「子育てひろば『あい・ぽーと』」

虫も泥も気にしないよ

快晴の土曜日、千葉県木更津市の「農業公園ぼんぼこ村」に親子連れが集まった。有機肥料を配合し農薬を使わない農業を体験できる施設で、旅行会社「アドサン」(同市)の直営だ。

経営者の三上徳康さんが、市の子ども会に関わるうちに食物アレルギーを持つ子に出会い「本物を食べさせてあげたい」と考えたのが取り組みのきっかけだという。

「小さい頃から読んでいたら甘いよ」と三上さんの一声でサツマイモ堀りが始まった。土からは虫やカエルも出てきて、緊張で黙っていた子も「おっきいの取ってやる!」「モグラさんが掘ればいいのに!」とよく話すようになり、泥だらけになっていった。わが子を見守っていた川

「おおらかに育って」



土からネギを抜いて満足げな子どもたち＝千葉県木更津市の「農業公園ぼんぼこ村」

る。三上さんも「小さいうちに、調味料のいらぬ野菜本来の味を覚えてほしい」と話していた。このような活動は都市部でも広がっている。東京都港区のNPO法人「あい・ぽーと」が区の支援を受けながら運営する「子育てひろば『あい・ぽーと』」では、有機野菜の植え付けから収穫までを体験できる。社会園芸学科のある恵泉女学園大学とともに企画した講座だ。

この日は、以前来たハクサイとダイコンの種の様子を確かめ、同大教授の沢登早苗さんは子どもたちに「前回(肥料として)牛のウンチやおしっこを入れたね」と優しく話しかける。決して添加物を否定するわけではなく、沢登さんは「それがどういふものか、子どもたちがわかっていることが大事です」と力を込める。

有機農業の体験で得られるのは何だろうか。「農業で子どもの心を耕す」(子どもの未来社)の著者でフリーライターの蜂須賀裕子さんによると、子どもたちは野菜に多少の虫や泥が付いていた、色や形がバラバラだったりしても気にしなくなるという。「人間だっている人がいると考えると、おおらかになれるのでは」と指摘している。

■「朝食食べてダイエット」受講 食は人と人をつなぐ

私の通う大学にはユニークな講義がある。その名も「朝食食べてダイエット」。朝8時すぎから大学生協が提供するおいしい朝ご飯をいただきながら、食と健康の関係などについて学ぶ。幼いころから食いしん坊だった私は、先輩から教えてもらうや、迷わず受講を決めた。大和柿のサラダ、サツマイモとインゲンの炒め物、きのこご飯、フルーツゼリー…顔なじみの生協のおばちゃんが作ってくれるメニューは

栄養たっぷり、地元でとれた旬の食材にもこだわる。

家族と離れて一人暮らしをする私にとって、これは大きい。かかわっている方たちの時間、そして愛情をいただいていると実感でき、おなかも心も元気になれるからだ。

もともと、自炊派だったが、講義でほかの学生が発表するお気に入りレシピに刺激を受け、ますます料理に力が入るようになった。最近気になったのは、地元沖縄ではなじみの薄い「いりこだし」。好きなアーサー汁(アオサの吸い物)で試してみたら、これが大成功。

食が人と人をつなぎ、人との関係で食が生まれる。その素晴らしさを実感するこのごろだ。

キャンパス発
宮里真以
奈良女子大
生活環境学部2年
(沖縄県出身)

教育

再発見!

子どものうた

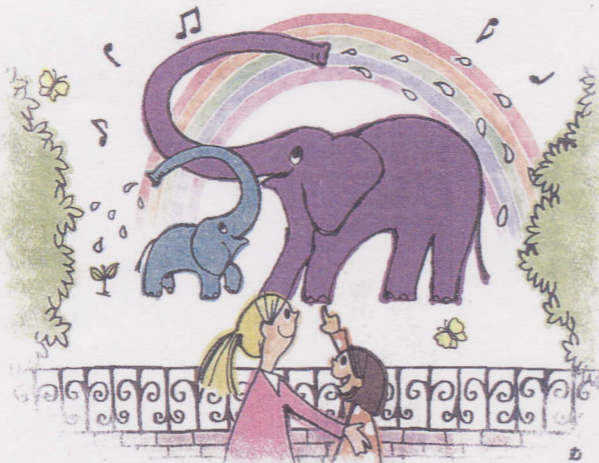
①

今年104歳になるまで、みちおさん。いま最も長命な日本を代表する詩人であり、日本芸術院賞、国際アンデルセン賞などを多数受けておられる大家です。この詩人とオペラ「夕鶴」などで世界的に知られる作曲家・故園伊玖磨さんによるた

った8小節の「うた」は、最高の名曲童謡だと思えます。この作品は日本で最も短い歌の一つですが、母子の心の結びつきがこれほど簡潔に表現されてくる歌詞は、ほかにない

でしよう。私の経験から言って、8小節の音楽は80小節の作品の何十倍も作曲が難しいのです。世界中で、日本ほどたくさん現代童謡がつくられていてはありませぬ。外国の楽譜屋でその国の現代童謡作品集を探しても、そのような楽譜はほとんど市販されてはいないので、たまたま見つけたりは、日本では本屋に行けばすぐ見つけます。

まどさんの「ぞうさん」 母子の風景、8小節に凝縮



イラスト・LINEN

す。その大きさが、1918(大正7)年創刊の童謡雑誌「赤い鳥」(有名な「この道」)「かなりや」も、この雑誌で発表された作品で

す。まどさんもこのような雑誌に投稿し、認められました。「ぞうさん」は昭和27年、NHKラジオ「うたのおぼえん」で発表された作品(作曲家・服部公一)

子どもから大人まで、幅広く親しまれる童謡の数々。服部公一さんが戦後に生まれた作品を中心に、その魅力の秘密を分かりやすく紹介します。

はっとり・こついち 33

年山形市生まれ。管弦楽曲やミュージカル、ジャズ、歌を手掛けた学校は、15校を超える。

トピックス

★スマホをこどもモードに スマートフォン(多機能携帯電話)やタブレット端末を、子どもが触っても安心な設定に切り替えられるアプリ「こどもモード パパママ・アプリ」を、IT企業「スマートエデュケーション」が開発した。「こどもモード」に設定すると、親が選択したアプリしか画面に表示されず、子ども向けの動画しか見られなくなる。設定した時間になると、アプリが自動的に終了するタイマー機能付き。基本ソフト「アンドロイド」用で、「Google Play」というアプリ配信サービスから無料でダウンロードできる。